

# 「男女共同参画の視点に立った地域の課題解決」のためのプログラムデザイン

【事業名】 子どもを守るために、3歳から始める性教育講座

【趣旨】 わいせつ事件の低年齢化が進む中、自分を守るための早期の性教育は重要である。特に就学前の性教育が栃木県ではまだ浸透していないため、就学前の子供を持つ親を対象に、家庭で性教育を行う方法を伝え、将来の性暴力の被害者・加害者を減らす一助にする講座としたい。

**課題** わいせつ事件の低年齢化が進む中で、就学前の親たちの間で性教育の重要性が理解されていない。栃木県内で令和3年度にいくつか性教育講座が開催されたがあまり人が集まらない。また、子どもの性的な悩みを人に言えず抱えている親は案外多い。

**目的** 性暴力の被害者・加害者を減らすために幼児期からの性教育の重要性を広く認識してもらう。

**対象** 就学前の子を持つ親、30名程度、開催土曜10:00~12:00

**連携先**

栃木県助産師協会（講師選任）、栃木県幼稚園連合会（広報協力）  
栃木県教育センター（幼児保護者向け情報誌のネタ提供及び広報協力）

**目標** 基点・基軸の形成

課題解決

振り返り

男女共同参画推進意識の形成

現状把握

課題把握・課題共有

課題解決の方策の検討

課題解決のための行動

**内容**

アンケート

（事前アンケート  
メール等で子どもの性の悩みを募集）

★まずみんなで考えよう！（15分）  
「性教育のメリットってなに？」  
個人ワーク（1分）→グループになって自己紹介がてら発表（8分）→全体シェア（6分）  
★講義（20分）  
※メリット3つ  
①子供の自己肯定感が育つ  
自分も大事な存在、他人も大事な存在ということを認識する※ミリオングローバルキッズの事例「お着換えで必要以上に大騒ぎすることはなくなった」「だいじだいは自分で洗う」と3歳の子供がいうように。  
②性暴力の被害者・加害者にならない  
③興味本位で性体験をすることがなくなる（学ぶことでかえって慎重になる）※日本性教育協会の調査「幼少期に適正な教育を受けた場合には、初体験の年齢が上がる」

★講義「なんで幼児期から必要なの？」（15分）  
・おっぱい、おちんちんなどのことばに最も興味を示す時期からの教育が大事（公的な場でいうことがダメな理由を理解できるようになる）  
・幼児期でも知らず知らずのうちに加害者になっている可能性あり。（性器を見せびらかす、ズボンをおろして遊ぶ、好きな子にキスをする等）  
・子供が素朴に「赤ちゃんはどこからくるの？」などの質問をしたときに親が恥ずかしがってはぐらかす→子供は自然とタブーなことだと学び、親に聞かずAVやポルノ雑誌等から間違った性情報を学ぶ。  
↓  
幼児期からの教育が大事！

★講義「何を教えたらいいの？」（10分）  
・プライベートパーツをまず教えよう！  
・性教育の絵本を読むのが一番近道（おススメ絵本は後ほど）  
・動画の紹介（パンツザウルス）  
・お風呂に入っている時にクイズ  
★グループワーク「こんなときどうする？」（15分）  
・「赤ちゃんはどこから来るの？」と聞かれたらどうする？  
グループ考えて答えを出す（5分）→全体シェア（10分）  
・恥ずかしがらず淡々と答えよう。  
・科学的に伝えるのが大事！（絵本を使ってもOK）

★グループワーク「子供の性に関わる悩みをみんなでシェアしよう！」（20分）  
事前アンケートで出された悩み3つ厳選しグループワークの議題とし、みんなで考えていく。→全体シェア・最後に講師からお話し  
★おススメ絵本の紹介（5分）  
（会場にライブラリーの性教育絵本などを展示し、利用につなげる）

★個人ワーク「今日からこんなことを子供に伝えたい」シートに書いて意思表示、2~3人に本日の感想も含めて発表してもらう

**方法**

メールもしくは返信用封筒

グループワーク（15分）→講義（20分）

講義（15分）→休憩（10分）

講義（10分）→グループワーク（15分）

グループワーク（20分）→紹介（5分）

個人ワーク&全体シェア（10分）

全体2時間構成